

2019年度退職教員

文学部着任以来、長きにわたり教育・研究ならびに大学運営にご尽力いただきました先生方が2020年3月31日をもって定年を迎えられます。退職記念講義が行われる場合は文学部校友会HPならびにFacebookにてお知らせいたしますので、ご確認ください。



谷 徹教授
人間研究学域
哲学・倫理学専攻
2003年4月着任



高橋 学教授
地域研究学域
地理学専攻
1991年4月着任



宇野木 洋教授
東アジア研究学域
現代東アジア言語・文化専攻
1984年4月着任



津熊 良政教授
コミュニケーション学域
国際コミュニケーション専攻
1991年4月着任



芳村 弘道教授
東アジア研究学域
中国文学・思想専攻
2000年4月着任



湯川 笑子教授
コミュニケーション学域
国際コミュニケーション専攻
2005年4月着任

伝言板

■2019年度 哲学同窓会総会

【日 時】2019年10月5日(土) 14:00 受付開始
14:30~15:30 総会

【場 所】立命館大学衣笠キャンパス内 末川記念会館2階会議室③
【その他】懇親会は、当日実施される文学部校友会に合流いたします。
詳細は、8月末発送予定の哲学同窓会誌および同ホームページにてご確認ください。

■第46回 英米文学同窓会

【日 時】2019年10月5日(土) 13:00 受付開始
13:30~16:00 同窓会

【場 所】ANAクラウンプラザホテル京都 醍醐の間
【その他】会費等詳細につきましては英米文学同窓会会報および文学部校友会HPでご案内します。

■2019年度 地理学同窓会懇親会(地理学・地域観光学合同)

【日 時】2019年11月30日(土) 17:30 受付開始
18:00 総会
18:30 懇親会

【場 所】立命館大学衣笠キャンパス内 諒友館食堂地下ROSSO
【会 費】6000円 (2019年3月卒業生は3000円)
【その他】詳細は、地理学同窓会から7月発送(配信)予定の同窓会だより、または地理学同窓会ホームページにてご確認ください。

訃報

名誉教授 上田 博先生 2018年11月11日ご逝去
<文学部の在職期間 1983年4月~2006年3月>

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

入会案内(2006年度以前にご卒業の皆様)

文学部校友会は、2007年度、文学部創設80周年を期に設立されました。現在では、約14,000名の会員様にご支援いただいております。

文学部校友会は、専攻の枠をこえた学部校友会として、専攻の同窓会とも協力しながら、卒業生のみならず文学部教職員・退職者が旧交を温めつつ、文学部校友会のなかで、新たなつながりを築いていけるよう、運営に努めております。

校友会入会にあたっては、終身会費として1万円の会費の納入をお願いしております。趣旨をご理解のうえ、ぜひご入会いただき、より幅広い交流と、立命館大学文学部・文学研究科の発展にご協力いただきますようお願い申し上げます。

【文学部校友会入会手続きについて】

2006年度以前にご卒業の方が、新規にご入会いただく場合は、お手数ですが、下記までご連絡ください。
立命館大学 文学部校友会事務局
電話:075-465-8187(文学部事務室内)
mail:ltalumni@st.ritsumeii.ac.jp

同窓会・ゼミへの支援

クラス・ゼミ等の同窓会

研究入門
基礎講読
基礎実験実習
演習I-II
ゼミナールI-II(テーマリサーチ)
専門演習(I~IV)

専攻・プログラム同窓会

複数年度の卒業生が参加するもの

上記に該当する同窓会活動に関する経費を補助させていただきます。

■補助内容

同窓会開催に関する経費、記念誌印刷、案内郵送料、同窓会HP作成など同窓会活動に関する経費について補助します。

申請団体	補助の根拠	補助金額
専攻・プログラム同窓会	同窓会規約。規約のない場合は専攻主任または教員の確認印。	実費支給上限50,000円
クラス・ゼミ	担当教員の確認印。確認が取れない場合は文学部校友会事務局に相談。	実費支給上限10,000円

申請方法など、詳細は立命館大学文学部校友会ホームページ「同窓会活動」のページをご覧ください。

<http://www.ritsumeii.ac.jp/acd/cg/lt/koyu/index.html>

原稿募集

文学部校友会報 LETTERS(年一回発行)では「校友の「いま」(近況報告)」、「伝言板(同窓会案内)」などの原稿を募集しています。詳しくは、文学部校友会ホームページをご覧ください。

秋のイベント情報

2019年度 文学部校友会総会・懇親会

10月5日(土) ANAクラウンプラザホテル京都

くわしくはP.3



ご挨拶

立命館大学文学部校友会 会長 **池坊 専好**

夏の太陽がまぶしい頃となりました。

いつも立命館大学文学部の校友会活動に御参加、御支援を頂きありがとうございます。日本、さらには世界のあちらこちらでまた様々な分野にわたり活躍されている皆様一人一人がいらっしゃる、そして校友会に心を寄せてくださっていることが大きな力となり、またよき伝統となり立命館大学を支えています。

さて、この度、清心館が改修されることとなりました。ここは授業やゼミなどで多くの時間を過ごした最も思い出深いところではないでしょうか。清心館もできてから約40年が経ち、今の学生やこれからの学生たちがよりよい環境で勉学に打ち込めるよう、また、学習環境の変化に対応できるように教室、学生ラウンジやアメニティーなどが改修されます。自分たちが学んだ場がそのまま残っているというのも懐かしいものですが、その一方で次代を見据え進化し続ける立命館の姿を見るのも大学を再訪する際の大きな楽しみといえ

るのではないのでしょうか。新しい清心館が完成した暁には、2020年、校友の皆様にご覧頂く機会を設けたいと考えておりますのでぜひ御参加くださいますようお願い申し上げます。

また建物というハード面のみならず、教学の面でも2学域の新設、専攻横断型のクロスメジャー(専攻の学びにとどまらない学習意欲を持つ学生に対して、専攻に加えて学ぶ機会を提供し、かつ専攻とほぼ同等に継続的に学べる仕組み)設置など大きな変化があります。考えてみると、立命館は、常に変化し、時代に挑戦し、適合してきたからこそ今の評価に繋がっているのではないのでしょうか。

ダーウィンの言葉「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である。」を思い出します。私たち校友会は、心の拠り所としつつも、常に変わり続ける大学を新しい清心館のように新たな心で応援していきたいと願っています。



学部長ご挨拶

立命館大学文学部長・文学研究科長 よね やま ひろし 米山 裕

立命館大学文学部校友の皆さまには、日頃より学部へのご支援ご協力を賜っております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。昨年度の文学部校友会懇親会に大勢の皆さまのご参加をいただいたほか、様々な形でのご協力を賜りました。重ねて心より感謝申し上げます。

さて、文学部では2012年度に学域・専攻制度を導入するという大改革を実施しましたが、2020年度には2学域の新設(2学域内に4専攻の新設)、2専攻の名称と教学内容の変更、専攻横断教学を図る2クロスメジャーの設置という中規模の改革を行います(次ページをご覧ください)。12年度改革は、1回生時に幅広く人文学を学べるよう、複数の専攻を包含する学域に入学し、大学での学びを経て2回生から希望専攻に所属する仕組みを構築したものでした。今回の改革も、文学部教学の国際化、学際化、総合化という大きな改革方針に沿ったものです。

また、衣笠キャンパスにおいて永く文学部の基本棟として使用してきた清心館の大規模改修が始まりました。2019年度のあいだは、文学部の機能の多く(事務室、学生ラウンジ、専攻共同研究室、教室)が洋館(一部は啓明館)に移動して稼働しています。2020年春には「新」清心館に戻ると同時に、啓明館の大規模改修のフェーズに入

ります。文学部の諸施設の更新が全て完了するのは2021年春ということになります。清心館と啓明館の1階には、新しい文学部の学びに対応した協働学習(collaborative learning)施設としてのラーニング・commonsが誕生します。文学部の基本棟は広小路で1949年に第二新館が、1957年に清心館が作られました。衣笠の清心館は1978年から使ってきました。今度の改修はこれらに比する大事業です。学生の皆さんが、新しい清心館で共に学び、成長する姿を、校友の皆さまにも見守っていただきたく思います。

日中韓の学生がそれぞれのキャンパスを移動しながら学び合う「キャンパスアジア・プログラム(CAP)」は、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」第2期に採択され、文学部のCAP生の約20名が韓国、約20名が中国で学び、中国と韓国のCAP学生合計40名が衣笠に来て文学部で学んでいます。CAPは、今年3月、中間評価でS評価(最高評価)を得ました。このほか、英語圏やアジア圏、欧州にも新たな短期海外派遣プログラムを新設するなど、さらなる国際化に挑戦を続けています。

このような文学部、文学研究科の発展は、校友の皆さまの支えが無ければ決してかなわなかったものです。改めて感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご支援のほど、お願い申し上げます。

2020年度、文学部が新しく変わります!

教学内容

2012年度から導入された「学域・専攻制度」による系統的な学びを維持しつつ、さらなる国際化の推進や学部横断型の学びの展開に重点を置いた改革を行います。

● **コミュニケーション学域の中の専攻である「国際コミュニケーション専攻」「言語コミュニケーション専攻」を、それぞれ学域として新設します。**

→「国際コミュニケーション学域」:約半数の科目で、英語による授業を実施。高度な英語コミュニケーション能力を持つ人材・高いレベルの英語科教諭の育成を目指します。

→「言語コミュニケーション学域」:日本語教員養成プログラムの強化と、現代社会を生き抜くことのできる真のコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目指します。

● **「西洋史学専攻」を「ヨーロッパ・イスラーム史専攻」へ改変**

● **「日本文化情報学専攻」を「日本語情報学専攻」へ改変**

● **専攻横断型のクロスメジャーの設置**

→京都の立地を活かした「京都学」と、AIを見据えた「デジタル人文学」



詳細は文学部HPをご覧ください。▶▶▶ <http://www.ritsumei.ac.jp/lt/>

施設

清心館は1977年に竣工され、1978年から文学部の基本棟として利用を開始して約40年が経ちました。この度、清心館と啓明館は教学環境の改善のための大規模な改修工事を実施することとなりました。



工事中の清心館

● **ラーニング・commons**

清心館1階および啓明館1階に広大なラーニング・commonsの空間を創出します。改修前の清心館地階にあった中庭も、新清心館において屋外のラウンジ・commonsとして活用します。

● **教室**

文学部の多様な教学に対応することを目的として、プロジェクター等のAV機器の更新、座席レイアウトの変更、シアター機能・可動式ステージ機能を配置した教室(ラーニング・シアター)の新設等、多目的・多用途に対応できるように教室の整備を行います。



屋外ラウンジ・commons(イメージ)

	改修期間	利用開始
清心館	2019年3月~2020年3月	2020年4月~
啓明館	2020年3月~2021年3月	2021年4月~

東側広場

before



after



2017年4月、衣笠キャンパスの至徳館(旧中川会館)前に「東側広場」が誕生しました。

この場所には、1967年から2016年3月までの間、「衣笠図書館」が建っていましたが、2016年4月、第一体育館跡地に「平井嘉一郎記念図書館」が開館されると同時に歴史的使命を終え、東側広場へと生まれ変わりました。

東側広場は「日常的な憩い・発信の場」となることを目的としており、昼休みや授業の間には、学生たちが集い食事をとったり、芝生に寝転んだりしているほか、サブステージを使ってクラブ・サークル活動のパフォーマンスなどが披露されるなど、学生たちのコミュニケーションの場として賑わっています。

また至徳館側の入口には、かつてここに衣笠図書館があったことを記念するモニュメントが設置されています。碑に埋め込まれた茶色のタイルと中の白い大理石は、図書館の外壁や館内壁面で使用されていたものです。訪れた際にはぜひご覧ください。

2019年度 文学部校友会 総会・懇親会

とき

2019年 **10月5日** (土)
16:00受付開始

ところ

ANAクラウンプラザホテル京都
2F 平安の間

京都駅⇄ホテル間の
シャトルバスがあります

京都市中京区堀川通二条下ル土橋町10番地 Tel: 075-231-1155(代表)
URL: <http://www.anacpkkyoto.com/>

企画 ミニ講演

『いま、京都観光で何が起きているか』



やまむら じゅんや
山村 純也 氏

★講演者プロフィール

1997年文学部英米文学専攻卒業。在学中から観光事業に取り組む。卒業後、大手旅行会社に勤務し、京都の特別拝観企画などを立ち上げて実績をあげる。2006年4月、株式会社らくたびを創立。以後ツアー企画、講師などで活躍。2007年3月『らくたび文庫』シリーズを創刊。おもな著書に、らくたび文庫『幕末 龍馬の京都案内』、『京都 国宝の美』(コトコト)などがある。京都検定1級。



◆参加対象 **先着250名** 定員に達し次第、受付を終了させていただきます。

文学部校友会員・文学部卒業生

※立命館校友と文学部校友は異なりますのでご注意ください(詳細は、会報P.7「入会案内(2006年度以前にご卒業の皆様)」をご覧ください)。

◆参加費

文学部校友会員 **2,000円** 非会員(入会いただいていない方・同伴の方) **3,000円**

2016~2018年度卒業生(2016年9月~2019年3月卒)、卒業後10年(2009年3月~2008年9月卒)、卒業後50年(1969年《昭和44年》3月卒)の文学部校友会会員の方は、**無料ご招待**いたします。

◆申込締切

8月30日(金)までに、この会報「LETTERS」vol.11折込みハガキでお申込ください。

定員に達し次第、受付を終了させていただきます。受付状況および参加される先生方の情報は文学部校友会HP・Facebookにて順次お伝えしていきますので、ご覧ください。

◆お問合せ

文学部校友会事務局 TEL. 075-465-8187 FAX. 075-465-8188 月~金曜日 9:00~17:30(土日祝日を除く)

2018年度活動報告

文学部校友会 懇親会報告

◆日時 2018年9月29日(土)
◆会場 京都ホテルオークラ

ミニ講義

華道家元池坊 次期家元 池坊専好氏による、講義「いけること いかさこと」を開催しました。いけばなではその花材が持つありのままの姿を大切に、という姿勢や考え方についてのお話とともに、実演も行っていただきました。いけばなに馴染みのない方にも大変わかりやすく興味深いお話で、みなさんステージの様子を熱心に見ておられました。完成した作品は懇親会の間ステージ近くに展示し、間近で眺められる方や写真に収められる方が多く見受けられました。



池坊専好会長

開会あいさつ・乾杯・歓談

池坊専好会長による開会のあいさつでなごやかに幕があがり、続いて上野隆三文学部長による乾杯のご発声で歓談がはじまりました。おいしい和懐石を楽しみながら、世代を超えて和気あいあいと交流されている様子が各テーブルで見受けられました。



演奏会・抽選会

歓談の中ごろには、立命館大学混声合唱団メディックスによる演奏をお聴きいただきました。秋の訪れを感じられる「赤とんぼ」、校友には馴染み深い「立命館大学 校歌」など全5曲を披露いただき、会場全体が素敵な歌声に聴き入っていました。

その後は毎年恒例の抽選会を実施しました。「メディックス演奏会チケット」、「池坊専好会長のサイン入り著書」、「アメリカンフットボール パンサーズ観覧チケット」、「京都ホテルオークラお食事券」、「横浜DeNAベイスターズ 東選手のサイン色紙」等が会場のみなさんに当たり、大きな盛り上がりを見せました。最後には文学部校友会のさらなる発展を祈念したうえで、盛会のうちに閉幕しました。



2018年度 文学部ゼミナール大会 文学部校友会会長賞 舟屋民宿の人文地理的考察

団体名

いねイーネ 

メンバー

地域観光学専攻3回生 (受賞当時) たけうち 竹内 祥太郎さん
地域観光学専攻3回生 (受賞当時) なか がき 中垣 藍さん

地域観光学専攻3回生 (受賞当時) しょうた ろう 祥太郎さん
地域観光学専攻3回生 (受賞当時) あい 藍さん

地域観光学専攻3回生 (受賞当時) あべ りつき 安部 栗樹さん
地域観光学専攻3回生 (受賞当時) もり ももこ 森 桃子さん

校友会会長賞を受賞し、大変光栄に感じております。

丹後半島臨海部に位置する伊根浦の舟屋集落では、戦後から舟屋を活用した民宿が多く展開されてきましたが、モータリゼーションなどによる日帰り客の増加や観光客の減少から、民宿の数は減ってきていました。しかし、平成17年に伊根浦の舟屋集落が重要伝統的建造物群保存地区に指定されたことで観光客が増加しました。また、近年では「Uターン」や「Iターン」などを国や自治体がサポートする事業が展開されています。これらにより、舟屋の在り方にも変化がみられるのではないかと考え、地域観光学応用研究の授業を通じ、伊根浦で調査を行いました。



専攻紹介ピックアップ

日本史研究学域 考古学・文化遺産専攻 ながとも ともこ 長友 朋子 教授



考古学・文化遺産専攻の始まりは、1987年に日本史学専攻に開設された考古学ゼミでした。私自身も1993年に考古学ゼミに入り、当初から元気で活発な雰囲気だったことを覚えています。考古学ゼミから考古学コース、さらに考古学専攻へと体制が代わり、現在の考古学・文化遺産専攻という新たな名称になりました。2016年から旧石器・縄文、弥生・古墳、歴史(2つ)という4つのゼミになり、縄文土器から陶器製手榴弾まで、幅広い時代やテーマを研究できる環境が整っています。考古学では、地中に埋もれた遺跡や遺物を研究対象としますが、近年ではこれらを文化遺産として大切に保存し地域社会へ活かすことが重視されるようになってきました。考古学・文化遺産専攻という現在の名称は、これらを含めて学べる専攻にしたと考えたからです。

考古学の魅力は何といってもフィールドに出て調査できることですが、私の担当する弥生古墳時代ゼミでは、毎年夏に城陽市教育委員会と協力して久津川車塚古墳という南山城地域最大の中期古墳の

調査をおこなっています。発掘調査では予察→遺構検出(発掘)→検討→予察を繰り返すため、鋭い観察力と考察力が養われます。学期中は週1回のゼミ活動や、より専門的に学びたい学生のための、行政と連携した月1回の勉強会を通して、調査古墳の報告書を作ります。他大学の学生と切磋琢磨し、文化財行政に直接触れられるのは勉強会の魅力です。専門職へ就職する際に役立つ実践的な勉強ができる利点もあります。卒業論文のための研究では、資料所蔵機関へ足を運び自らの目で資料を観察することを奨励しています。実際に遺物や遺跡に触れることでより深く理解できるだけでなく、考古学の面白さや魅力を感じることができるからです。



文学部校友の「いま」

今を生き 未来を信じる



文学部校友の「いま」

いしかわ ただひこ
石川 忠彦さん

哲学専攻
1990年卒業
イオンベトナム

2013年よりベトナムでの勤務が始まりました。イオンベトナムのハノイ市1号店となる、総合スーパー、イオンロンビエン店を開店させるための人事異動で、この地は、中国・北京市、タイ・バンコク市と渡り歩いての3か国目の海外赴任地でありました。ただし、私が組織の立ち上げから行ったのは、ここが初めての地でした。事務所の場所の確保から始まり、採用と教育を何度も繰り返し、現在では500名を超える従業員を抱えるまでに成長しています。

ベトナムの小売業の経営品質は、私が経験した他国の中でも決して高くはありません。従業員の仕事のレベルもまだまだ未熟です。同じ内容を繰り返して説明をしても実施されないことがよくあります。そのような状態から、行動の一つ一つを変えていきました。開店から

始まった、たくさんの試練のおかげもあり、店舗のオペレーション力は進化し続けています。「今を生き 未来を信じる」という言葉を最近自らで使用しています。今を懸命に生き、努力し続けることによって、より良い未来を創ることが出来ます。目の前の従業員を指導し、その行動が変わることが、将来の企業実績へとつながってゆくのです。

今後は、本年の2019年末にハノイ2号店、2020年下期に近隣のハイフォン市に1号店と2店舗が新たに開店する予定です。ベトナム北部3店舗体制へとさらに事業は拡大していきます。

私にとっては、いつでも、「今が一番大事」なのです。

お客さまのために何ができるか

私は2011年度に日本史学専攻考古学コースを卒業し、ジェイアール西日本伊勢丹に就職しました。

よく、なぜ大学で考古学を学んだのに全く異なる業界の百貨店に就職したのか?と聞かれますが、考古学を学ぶことも百貨店で仕事をすることも、高校時代からの私の夢であり目標でしたので、今は両方を叶えることができ大変嬉しく思っています。

私はもともと、「人のために何かをしたい」という思いが強く、百貨店に就職しました。現在、私はジェイアール京都伊勢丹の婦人・ベビー子供の担当をしております。これまで大阪店や新宿本店で婦人服・婦人雑貨を担当させていただき京都店へ異動、店頭での接客や販売はも

の企画、店頭マネジメントなど、様々な立場で仕事をさせていただきました。それぞれに共通することは「お客さまに何ができるのか」ということです。特に、ジェイアール京都伊勢丹は、京都駅ビル内という立地から、京都にお住まいのお客さまから、日本国内の観光客のお客さま、海外からお越しのお客さままで、たくさんの方が来店されます。そのため常に、さまざまなお客さまに満足いただくために何ができるか、を考えて仕事をしています。自分が企画した施策や手配した商品、サービスでお客さまが笑顔になっていただけることが何よりのやりがいです。何かで迷ったり、つまずいたりした時はいつも「人のために何かしたい」「お客さまに何ができるか」と、初心に戻って仕事をしようという心がけをしています。



文学部校友の「いま」

せきど かずまさ
関戸 一将さん

日本史学専攻
2012年卒業
ジェイアール西日本伊勢丹